

2019 年度

事業計画

2019年3月31日

学校法人 上智学院

はじめに

学校法人上智学院は、上智大学が創立100周年を迎えた2013年に「叡智（ソフィア）が世界を繋ぐ Sophia - Bringing the World Together」というミッションを掲げ、中長期の将来発展構想である「グランド・レイアウト2.0（2014年度～2023年度）」（以下GL2.0）を策定し、教育研究環境の改善に努めて参りました。この5年間、GL2.0の下、グローバル化の推進、大学ガバナンス改革への着手等様々な成果を残すことができました。

今般、2019年度より後半5年間の第二期に入ります。これまでの実績と本学院の現状と課題を明確にした上でGL2.0は「グランド・レイアウト2.1（2019～2023年度）」（以下GL2.1）として見直しを進めました。今までよりも取り組むべき事項をより明確にし、GL2.1の行動計画としてアクションプランを定め、その単年度計画として2019年度事業計画を策定いたしました。

本学院は、“Men and Women for Others, with Others”（他者のために、他者とともに生きる人）の育成という教育の精神に則り、その精神を身につけた人材育成に力を注ぐ環境下で、学院が設置するすべての学校が連携してイエズス会教育を深化させるとともに、国内外の環境変化を見据えつつ、伝統と実績を更なる成果として発展させるため、本事業計画の推進を図って参ります。

I. 事業計画

A. 上智大学の将来計画

1. 教学計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
（次世代社会へ向けた学部教育の再構築）		
(1) 建学の理念と教育精神に基づいたイエズス会人間教育を柱とし、次世代社会に対応する教育体系および組織を整備する	① 専門教育と教養教育の有機的な連携	・ 学科間あるいは学科科目と全学共通科目の有機的連携を図るためのカリキュラム体系の見直し
	② 高度な教養教育や実践的教育および学生の主体性・体験・実践を重視した教育の実現	・ 表現力、交渉力、課題発見力などを醸成するために、チームワーク、調和、リーダーシップなどの資質養成を目指したアクティブラーニング科目の設置準備
	③ 統合的な教学組織配置の検討	・ 全学共通科目の企画実施体制の検討
（次世代社会へ向けた大学院教育の再構築）		
(2) 建学の理念と教育精神を踏まえて次世代の大学院教育の充実を図る	① 社会人向け学位プログラムの設置	・ 大学院研究科・専攻の活性化、個性化を目指し、社会人向けプログラムを取り込んだ専攻などの設置準備
	② 大学院研究科・専攻の収容定員見直し	・ 大学院研究科・専攻における入学志願者数、入学者数および学位授与件数の推移を踏まえた収容定員の検討
	③ 学際的な教育研究の推進	・ 既存の枠組を超えた連携カリキュラムと横断プログラムの検討
（グローバルキャンパスの創成）		
(3) グローバル教育を推進し、国際通用性を備えた人材を育成する	① 国際通用性のある教育システムの導入	・ 世界の質保証ネットワーク活動の調査を踏まえた国際的評価に値するカリキュラムの構築 ・ 外国人留学生の帰属意識と大学への貢献へと結びつけるためのエンロールメントマネジメントシステム構築
	② グローバル・コンピテンシー涵養に向けた環境整備	・ 外国語による授業数の増加 ・ 文章作成能力の育成を図るためのライティングセンター設置の検討 ・ 日本語講座の更なる充実の検討
	③ 学生のモビリティ向上	・ 海外有力大学とのオンライン授業（COIL: Collaborative Online International Learning）実施の検討 ・ 国際社会を先導する人材の育成を目指す国際共同学位校の増加 ・ クォーターを活用した留学プログラムの開発

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(3) グローバル教育を推進し、国際通用性を備えた人材を育成する	③学生のモビリティ向上	<ul style="list-style-type: none"> 産業界および国際機関との教育連携の推進 学生の海外派遣および受け入れを活性化するために、地域とプログラムのテーマを戦略的に策定 国際通用性のある新たな単位互換の認定方法導入により、単位互換手続の簡素化を実施 留学生の受け入れと送り出し体制の見直し
	④2020年度のSPSF (Sophia Program for Sustainable Futures) 開設	<ul style="list-style-type: none"> 学内体制の整備 広報活動の展開
	⑤グローバルネットワーク・海外拠点の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> 既存イエズス会等ネットワーク、コンソーシアムへの参加戦略の策定 新規に参加するネットワークおよびオンライン教育ネットワークの開発 グローバル化推進のための拠点となる海外協定校の開拓、海外事務所の機能強化および活動戦略に基づく適正配置
(入学者の質と多様性確保)		
(4) 入試制度の多様化と見直しを行い、安定的に入学者を確保する	①高大接続改革に沿った新しい入試制度の設計および実施	<ul style="list-style-type: none"> 入試出題体制、共通テストへの参加、A0入試、ドキュメントスクリーニングの導入等についての検討
	②志望度が高い学生を確保するための入試広報の強化	<ul style="list-style-type: none"> 高校教員や保護者への訴求力を意識した広報活動の展開 受験生対象イベントの充実開催 海外指定校戦略会議の開催
	③高大連携の展開	<ul style="list-style-type: none"> SGH、SSH校などとの連携強化 国連ウィークなど本学行事への高校生参加呼びかけ拡大

2. 研究・学術交流計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(研究力の強化)		
(1) 大学全体としての研究力を強化する	①本学の特色となる重点研究の推進および拠点化	<ul style="list-style-type: none"> 学術研究特別推進費による、学際的かつ組織的研究への重点的な助成と研究拠点形成の促進 研究ブランディング事業の円滑な遂行と研究成果の見える化 研究評価委員会の適切な運営と研究活動にかかるPDCAサイクルの構築 既存研究拠点の更なる充実
	②研究成果の積極的な創出および学内外への発信	<ul style="list-style-type: none"> 国際シンポジウム開催の一層の奨励 研究機構各研究単位にかかる研究成果の適切な把握と積極的な発信
	③学術情報の安定的提供	<ul style="list-style-type: none"> 学術情報の安定的な提供方法の構築と提供体制の強化
(連携の推進)		
(2) 学内外との研究交流・連携を推進する	①学内横断的な研究のネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> 全研究分野にかかる研究シーズの幅広い把握とその効果的な公開と共有 横断的研究組織によるシンポジウムの開催および研究計画の奨励
	②官公庁や企業等との産官学連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携イベントへの計画的かつ戦略的な出展と、産業界のニーズと研究シーズの適時なマッチング 顧問弁理士との連携による、活用を見据えた戦略的な特許出願

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(2) 学内外との研究交流・連携を推進する	③外部資金の獲得および研究活動による産業界への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業の申請・採択件数および受託研究・学外共同研究の契約件数の更なる増加 ・外部資金の大規模な種目等への申請の奨励と、資金獲得にかかる支援体制の強化
(研究者の養成)		
(3) 独創的かつ公正な研究を行う人材を養成する	①若手研究者の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生研究活動支援制度の活用状況等の検証と、制度改善による支援強化策の検討・実施
	②研究コンプライアンスの強化・徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的な研究倫理教育およびコンプライアンス教育の継続的な実施体制の堅持 ・安全保障貿易管理等、新たなコンプライアンス対応にかかる最適な運用の推進

3. 学生生活支援計画

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(学生の健康管理体制の構築)		
(1) 心身両面での健康管理体制の充実を図る	①多様な学生からの相談や緊急事案に対応する環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生および障がい学生に係る問題点の洗い出し ・緊急対応体制および緊急対応のための学外連携機関の検討
	②学生局内の改組および学生相談室(仮称)の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学等の学生相談・健康管理体制についての視察およびヒアリング実施 ・新体制案の策定
(奨学金制度の拡充)		
(2) 奨学金制度の整備、拡充を図るとともに、奨学基金を増加する	①給付の基本方針に基づく制度設計	<ul style="list-style-type: none"> ・給付の基本方針に基づく奨学金の制度設計 ・奨学費の執行率向上
(キャリア教育および就職支援体制の確立)		
(3) 将来の働き方を見据えたキャリア教育・就職支援および多様な学生に対応する支援のあり方を見直す	①就職活動や就業の変化に応じたキャリア支援のあり方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のキャリアセンター利用状況のデータ取得 ・ガイダンス・セミナー、キャリア教育科目のラインナップ検討 ・企業からの情報収集強化
	②キャリアセンターの業務体制・プログラムの再構築	(2019 年度はなし)
	③多様な学生への就職先の開拓および支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生・留学経験学生の就職状況の分析 ・多様な学生の採用に積極的な企業の開拓
(社会貢献活動の支援)		
(4) 共生社会の実現を目指したプログラムを実施するとともに社会貢献活動を支援する	①様々なボランティア先の展開および学生への実践の機会提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加に関する学内関係部署との調整 ・派遣先の開拓および選択 ・学生ボランティアの実地派遣
	②学外での体験教育プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア支援の充実 ・地域連携プログラム(八雲町、飯舘村等)の発展・拡大ならびに新規プログラムの検討

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(学生生活の活性化)		
(5) 学生交流を支援し、学生生活を活性化する	①教育寮としての企画・運営	・アルペ国際学生寮での教育プログラム実施
	②キャンパスのアメニティ・スペース、課外活動の関連施設の充実	・真田堀グラウンド整備の検討
	③ピア・サポート等の仕組みづくりと支援の策定	・SSIC (Sophia Student Integration Commons)、アクティブ・commons における学生交流企画の充実

B. 上智大学短期大学部の将来計画

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
1. 全体計画		
(1) 短期大学部の中・長期的な組織・教育体制の整備計画を策定する	①入学定員充足を基盤とした組織・教育体制の充実	・入学定員の安定的確保のための取り組みの継続 ・将来構想の決定
(2) 短期大学部と上智大学との連携を強化する	①同一法人下における施策の共有と標準化	・100 分授業の実施と学事日程の変更
2. 教学計画		
(3) 教育の内部質保証を推進する	①卒業認定・学位授与の方針で示す能力の獲得により社会に貢献できる人材育成の強化	・TOEIC-IP テストの年間伸び率の向上
	②教養教育の効果測定・評価、改善を行う仕組みの構築	・必修科目「人間学 I」における教養力の効果測定方法の検討
	③英語能力を強化する教育の推進	・英語科目と連動した新 e-learning システムの導入
3. 学生支援		
(4) 多様化する学生の支援を推進する	①多様化する学生の将来設計に対応する的確な進路支援	・学生の希望する進路実現力に向けた施策の実施 ・進路未決定者数、休退学者数の減少に向けた施策の実施
4. 地域連携		
(5) 地域貢献の一層の質的向上を図る	①サービラーニングによる地域貢献の充実	・サービラーニング活動の一部単位化

C. 上智社会福祉専門学校の将来計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
1. 全体計画		
(1) 教育課程の統合・廃止や収容定員の見直しを含めた社会福祉専門学校の将来構想を策定する	① 将来構想の検討	・ 将来構想案の策定・検証
2. 教学計画		
(2) 社会福祉施設の連携によるコンソーシアムを構築する	① キリスト教系施設および千代田区との継続的な関係強化	・ キリスト教系施設への実習生配置と施設指導者の学内授業への講師招聘 ・ 「介護・福祉人材育成と就職の一体的支援事業に係る協定」に基づく、千代田区内施設事業所への実習生配置と区内への就職の促進
(3) 入学者の安定確保のための取り組みを強化する	① 広報活動の強化	・ アクセス数増に向けた HP コンテンツの充実 ・ 資料請求数増に向けたウェブサイト広告の活用 ・ 志願者数増に向けた学校説明会の工夫 ・ 外国人留学生増に向けた学校訪問の実施
	② 福祉職従事者への意識啓発	・ 資格取得を目指す福祉職従事者の受入促進 ・ アウトリーチ教育プログラムと連動した卒業生のための継続教育の促進
(4) 社会福祉専門学校の組織・教育体制の整備計画を策定する	① 教員評価制度の導入	・ 教員評価制度のトライアル実施
3. 学生支援		
(5) 国家資格取得のための指定養成機関としての充実を図る	① 国家試験対策講座などの学習サポートの強化	・ 模擬試験の実施 ・ 対策講座の充実
(6) アウトリーチ教育プログラムの充実を図る	① ソフィア会および外部団体との連携強化	・ 在校生の実践教育としての支援事業の開催 ・ 卒業生への継続教育としての企画を開催
(7) 留学生に対する国家資格取得のための支援をする	① 留学生の学習支援体制の整備	・ 留学生に対する個別の国家試験受験対策を実施

D. 生涯学習の将来計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(1) 将来の社会変化を見据えた生涯学習機関への改編をすすめる	① 新たな学修ニーズ、産業界のニーズに対応できる機関への改編	・ 新組織への移行準備 ・ 新規事業実施体制の整備
	② 本学における生涯学習支援機関としての積極的な情報発信	・ 連携講座を通じた情報発信 ・ 産業界、行政機関、本学協定校等の機関との連携強化
(2) 公開学習センター主催講座の再編を図る	① 主催講座のあり方の検討	・ 神学講座について、効率化の観点から担当部局を検討 ・ 社会貢献・地域連携に根ざした連携講座の実施

E. 中高4校の将来計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
1. 教育の充実		
(1) イエズス会教育の理解と浸透のためのプログラムを作成する	① ILP (Ignatian Leadership Program) の充実	<p>【六甲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価と授業のリフレクションの推進 <p>【広島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週開催する ILP 担当者委員会の継続による、内容充実と教職員の研鑽
	② イエズス会大学・教育機関との連携強化	<p>【栄光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国ポストンカレッジ「Ever to Excel」プログラムへの2019年度継続参加
		<p>【広島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育についての理解を深めるための研修プログラム開発について、連携可能な大学等の模索
	(2) 2020年大学入試改革への対応を見据えたカリキュラムを再編成する	① 英語の4技能向上(特にSpeaking技能)
<p>【六甲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部委託のネイティブ講師による少人数制LC授業の拡充(1学年→2学年) 		
<p>【広島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学3学年・高校1学年におけるオンライン英会話を継続し、授業時間中の生徒の発話量を十分に確保 		
② 次期学習指導要領への対応		<p>【栄光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科からの原案を元に、教育課程表を調整作成
		<p>【六甲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム対応授業の本格運用と授業改善
		<p>【広島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘しての校内研修会を実施 ・外部各種研修会への教員派遣 <p>【上智福岡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領、大学共通テストを見据えた授業研究・教職員研修会の実施 ・ICTを活用した授業の研究(タブレットの試験導入 G Suite for Education の活用)
(3) 高大連携を推進する	① 高大連携の具体策の検討と実施	<p>【栄光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上智学院として高校生が参加できる国際プログラムに上智大学と共に参加
		<p>【六甲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上智大学教授・講師による特別授業の実施
		<p>【広島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上智大学の教員を招聘し、授業や研修会を実施することでの生徒の学力と教職員の資質の向上
	② 高等教育部門との連携の強化	<p>【広島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上智大学教員を招聘する校内研修会の立案・実施
<p>【上智福岡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上智大学との教育提携プログラムの継続 		

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(4) グローバル化へ対応する	① 国際交流プログラムの充実	【栄光】 ・ Ateneo de Cebu (Sacred Heart School) との生徒交流プログラムの継続実施
		【六甲】 ・ 海外イエズス会学校との交流の促進
		【広島】 ・ 現行のフィリピン研修の充実を図るとともに、イエズス会学校に相応しい新たな国際交流プログラム開発の可能性の検討
		【上智福岡】 ・ カンボジア・スタディツアーの継続と内容の充実 ・ 中学3年生の語学研修（オーストラリア）の継続と内容の充実
(5) 少子化を見据えた入学者確保の方法を検討する	① 受験生確保の施策検討	【栄光】 ・ より効果的な広報活動の検討
		【六甲】 ・ 説明会、オープンスクール等の実施回数、内容等の見直しおよび広報活動の充実化
		【広島】 ・ 安定した新入生確保のため、オープンスクールや学校説明会、塾等への広報活動の継続 ・ スクールガイドや学校 Web ページの改訂
		【上智福岡】 ・ 福岡県私立中学合同入試説明会、福岡県私学展、オープンスクール等における広報活動の充実 ・ 授業の質の向上のため、授業校内研修会の実施（年3回）
2. 生徒支援		
(6) 多様な生徒に対応する支援を進める	① 多様な背景を持つ生徒の支援	【栄光】 ・ スクールカウンセラーの増員
		【六甲】 ・ 心理学系大学院生の実習受け入れを推進
		【広島】 ・ 生徒理解を深めるための校内研修会実施
	② 個々の習熟度に応じた学習サポート	【栄光】 ・ 成績不振者への補習や個別指導
		【六甲】 ・ 中1、中2の成績不振者対策の実施
		【広島】 ・ 長期休業中に実施する補習での習熟度別クラス編成 ・ 難易度の異なる長期休業中の課題の準備
	③ 自習環境の整備および充実	【広島】 ・ 生徒が校内で自習できる場所の確保や環境整備について検討
	④ 経済支援体制の整備	【栄光】 ・ 栄光イエズス会奨学金制度の継続実施

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(6) 多様な生徒に対応する支援を進める	④経済支援体制の整備	【六甲】 ・奨学金支給限度額と支援体制の見直し
		【広島】 ・イエズス会学校に相応しい奨学金制度の強化
3. 財務・管財部門		
(7) 学習環境（校舎・校地・設備）を維持管理する	①整備維持管理計画の策定および実施	【栄光】 ・要整備箇所に対する対策計画を策定し、予算措置を検討
		【六甲】 ・2018年夏の豪雨からの災害復旧と中長期的な施設設備整備計画の策定
		【広島】 ・西館・理科棟屋根防水工事、カントリーコース鉄骨階段設置工事等11件の改修・改善工事の実施
		【上智福岡】 ・旧実習農園の売却を含めた有効活用の検討 ・特別棟の改修計画の策定
	②ICT（Information and Communication Technology）環境の整備	【栄光】 ・全普通教室にプロジェクターを設置 ・コンピューター教室のPCの入れ換え
		【六甲】 ・電子黒板の増設と中期的なICT環境の整備計画検討（無線LANの配備、タブレット導入等）
		【広島】 ・PCのリプレイスや教務システム更新等のネットワーク利用環境整備計画の立案
		【上智福岡】 ・旧実習農園の売却を含めた有効活用の検討 ・特別棟の改修計画の策定
(8) 学校生活の安全性を高める	①防災計画の策定	【広島】 ・行政への砂防ダムの補強陳情の継続 ・下グランド法面の崩落防止工事についての課題整理と整備計画立案
		【栄光】 ・土砂崩れ防止工事の実施 ・行政への危険箇所対応の確認
	②災害危険地域の把握および対応策の策定・実施	【六甲】 ・「安否確認システム」（上智学院）の導入検討
		【広島】 ・危険箇所対策工事の実施
		【上智福岡】 ・旧実習農園の売却を含めた有効活用の検討 ・特別棟の改修計画の策定
		【六甲】 ・2018年夏の豪雨からの災害復旧と中長期的な施設設備整備計画の策定
4. 人事部門		
(9) 教職員採用計画に基づき適正な採用をすすめる	①年齢構成に応じた採用人事計画の策定	【栄光】 ・教員部門・事務部門の人員交代時期に合わせた人事計画の策定と実施
		【広島】 ・教職員の年齢構成に基づく採用計画立案
(10) 管理職（校長・教頭（副校長）・事務長等）を養成する	①管理職の養成と選任規程の策定	【六甲】 ・校長職規程ならびに校長候補者選任規程の制定
		【広島】 ・スムーズな交代を実現するための引継ぎ書類作成

F. 上智学院の運営基盤に関する計画

1. イエズス会ならびにカトリック教育の理解と浸透

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(1) 伝統を維持・継承し、絶えず適用し、刷新するための基盤を形成する	① イエズス会教育推進センターの充実、とくに教職員への働きかけの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「リーダーシッププログラム」の企画立案 ・イエズス会教育の理解を深める資料・HPの作成、整備 ・イエズス会教育の理解を深める教職員対象研修の実施 ・イエズス会教育の推進を支える組織・人事のあり方の検討
	② アーカイブの充実に向けた組織の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・史資料室の機能を強化する組織の改編の提案と実施 ・史資料室、キリシタン文庫、イエズス会教育推進センター等との連携強化
	③ 学院、および各学校単位でのアーカイブ資料の充実、研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学院の史資料収集および編纂の方針の立案 ・イエズス会本部と連携した資料調査の実施 ・(大学) 大学史編纂への取り組みの推進 ・(中高) 学校単位での史資料収集および管理体制の構築

2. 全体計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(ガバナンス改革の推進)		
(1) 上智学院における企画立案機能・迅速な意思決定を可能とする運営体制を構築・定着させる	① GL2.1/アクションプランに係る検証・提言・指示体制の構築と運用	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標 (KPI) による GL2.1 アクションプランの進捗評価、改善プロセスの整備
	② 役員・役職位の権限明確化と関連する規程の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教学系意思決定と施策への反映プロセスの検証 ・決裁権限規程運用状況の精査
	③ 会議体・委員会の役割を踏まえた整理統合と企画立案機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の会議体運営状況の検証 ・学長支援体制の整備
(教学に係る PDCA サイクルの確立)		
(2) 質保証を踏まえた教学マネジメント体制を構築・定着させる	① 教学部門における教育の質保証に係る PDCA サイクルの確立、およびそれに向けた体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・学長の下に設置する内部質保証検証体制構築に向けた検討
	② 認証評価制度への対応を意識した、自己点検評価サイクルおよび体制の構築と運用	<ul style="list-style-type: none"> ・学内自己点検評価の実施 ・内部質保証検証体制と連動した自己点検評価プロセス構築に向けた検討
	③ 教学監査システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・教学監査体制構築に向けた検討を継続
(リスクマネジメント)		
(3) リスクマネジメントを徹底する	① 学院の重要リスク選定、対策の実行・管理、検証体制の精度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・重要リスクの対策計画の立案、実施、評価 ・(必要に応じて) 重要リスクの選定方法、および対策実施の進捗管理方法の検証並びに改善

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(IR 機能の更なる整備)		
(4) 意思決定を支援する IR (Institutional Research) 活動を充実させる	①意思決定のために必要な情報収集と管理、レポート機能の構築	・ Tableau Server の積極的活用 ・ 教学組織、事務組織双方に対する分析支援実施
	②事業計画策定・検証における IR データの活用	・ 関係部署と連携した企画立案、ならびに検証プロセスの実施
	③IR 成果の学内外への情報発信強化	・ ファクトブックの拡充と分析結果に基づく積極的な情報発信
(ステークホルダーとの連携強化)		
(5) 学院を支えるステークホルダーとの紐帯を充実させる	①卒業生に係る情報収集の強化	・ 卒業生データの整備継続 ・ 帰国留学生の連絡先収集およびそのネットワーク構築
	②後援会および保証人との連携強化	・ 後援会加入率向上を目指した媒体の改善
	③地域社会への貢献強化	・ 地域近隣組織や企業と連携した事業・プロジェクトの実施

3. 組織・人事計画

GL2.1	アクションプラン	2019 年度事業計画
(教員組織のパフォーマンス向上)		
(1) 教員・教学組織のパフォーマンスを向上させる	①教員のパフォーマンス向上を実現するための教育・研究環境の整備	・ 教学組織（学部・学科、大学院および研究所）の自律性を尊重した組織目標設定と PDCA の運用 ・ 教員のパフォーマンス向上を目指す教員個人評価改善策の実行
	②Sophia20-20-20 の実現を推進するための教学組織の再編	・ 学部・学科および研究所にかかわる再編策の立案および決定
(職員の職務遂行能力の向上)		
(2) 職員・事務組織のパフォーマンスを向上させる	①職員のパフォーマンス向上を実現するための職員人事制度の構築	・ 職員の主体的・自律的な行動を促進する育成プログラムの実行 ・ 組織目標を達成するための SD の実行 ・ 専任職員の職層等級に合った格付と職員の適正配置策の実行
	②高度化・複雑化・専門化する業務の生産性向上を実現する仕組みの構築	・ AI 時代を見据えた職員の働き方にかかわる施策の立案 ・ RPA (Robotic Process Automation) を活用した業務改革の推進 ・ 部局（チームまたは担当の壁）を超えたプロジェクト型業務の推進および全学的な協業体制の確立
(人件費依存率適正化)		
(3) 効率的な組織運営を実現し、人件費の構造改革を実現する	①人件費構造の見直し	・ 専任教員持ち時間、非常勤講師担当科目、開講科目の見直し（受講者 10 名以下科目、開講時期）の観点踏まえた開講科目数の削減の実施 ・ カリキュラムの視点を踏まえた教員にかかわる適正人件費の見直し ・ 職員人件費の改善および職員の労働生産性向上策の実施 ・ RPA を活用した業務改革の推進 ・ 事業会社を活用したさらなる業務の外部委託化の推進
	②教学組織および事務組織の再編	・ 学部・学科および研究所の再編策の立案および決定 ・ 学部学科事務室、研究所等における職員の適正配置の立案および決定

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(ダイバーシティの推進)		
(4)教職員の多様性を活かし、いきいきとした組織をつくる	①人材の多様化による組織の活性化	・外国籍、障がい者、高齢者等にかかわる施策の推進 ・LGBTにかかわる施策の推進
	②教職員の帰属意識を高める職場環境の整備	・教職協働プロジェクトによるイノベーション推進(2020年オリパラ、女性活躍支援等) ・メンタルヘルスケアのさらなる充実と組織における改善策の実行
(学校間の連携)		
(5)上智学院が設置する学校間における連携を活性化させる	①人事・労務管理にかかわる課題への対応	・中等教育部門にかかわる人事・労務課題の整理と解決策の立案と実行
	②中等教育部門、高等教育部門との連携促進(交流含む)	・中等教育部門、高等教育部門との人事交流の実施

4. 財政計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(財源の充実)		
(1)自己財源を充実させる	①学生生徒等納付金収入の安定的確保	・学費単価改定による増収
	②資産運用収入の安定的確保	・資産運用方針の不断の検証と、高度なリスク管理に基づく資産運用収入の確保
	③財産(固定資産、知的財産)の活用による収入源の確保	・施設設備利用料収入の拡大
(2)外部資金を積極的に確保する	①寄付募集活動の積極的な展開による寄付金の増収	・新規寄付者の開拓とリピーターの増加を目指した寄付依頼媒体の見直し
	②科研費(科学研究費助成事業)、受託研究費等外部研究費の拡充	・研究支援体制の強化 ・研究者へのインセンティブが働く制度の充実
	③事業会社の業務推進による収益増加と学校法人への寄付金増収	・SCSの事業採算性やサービスの向上の検証に基づく、業務委託の推進と収益増加
(限りある財源の活用)		
(3)適切な予算配分を行う	①中長期財政計画と事業評価に基づく予算配分の実施	・中長期財政計画の見直し ・事業評価を取り入れた特別予算制度の見直し
(4)経費削減に恒常的に取り組む	①管理会計による事業収支の実態把握と対応策の実施	・事業収支赤字部門の検証と対応策の立案
	②固定経費の削減推進	・削減対象経費の選定と削減目標額の設定
(特定資産の充実)		
(5)教育研究環境維持向上のために引当金を拡充する	①減価償却引当特定資産の増額	・収支均衡(当年度収支差額0円以上)を目標とする予算策定
(6)奨学基金を拡充する	①第3号基本金の増額	・基金の増額を目的とする募金の展開 ・事業収支差額の基金への計画的組入れ

5. 施設・設備計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(教育研究環境の向上と維持保全)		
(1) 教育研究環境の向上を図る	① 中長期キャンパス整備計画の策定	・ 中長期教育研究環境向上計画（第2期キャンパス整備計画）の検討
	② 教育方法の多様化、研究の高度化、キャンパスのグローバル化、ユニバーサル化への対応	・ 3、4、8、9号館の改修工事と諸施設の再配置の実施 ・ 市谷キャンパス機能の四谷キャンパスへの移転 ・ 真田堀グラウンドの改修工事の実施 ・ バリアフリー対応改修工事、サイン工事の実施
(2) 施設・設備の維持保全を図る	① 予防保全を含めた中長期施設・設備保全計画の策定	・ 四谷キャンパス建物維持管理財政計画報告書に基づく中長期維持保全計画の検討
	② 維持保全に係るコストの平準化	・ 対策の優先順位付けに基づく維持保全の実施 ・ 省エネルギー対策の実施
(施設・設備のリスク対応)		
(3) 施設・設備の自然災害への対応推進によるキャンパスの安全性の向上を図る	① 様々なリスクに対応した施設・設備の改修および保全	・ 中高キャンパスにおける災害対策工事の実施

6. ICT計画

GL2.1	アクションプラン	2019年度事業計画
(ICTの活用)		
(1) ICTによる教育研究および学生支援をさらに高度化する	① 無線LANをはじめとするネットワークの利便性の向上	・ 無線LANアクセスポイントの効果的な増設 ・ 4、9号館ネットワークの構築 ・ スпамメールフィルタの増強
	② 授業・学修環境の整備・拡張	・ 兼用教室PCのOS更新 ・ 短期大学部学生カルテ用サーバの更新
(2) 経営戦略策定のためのツールとしてICTをより効果的に活用する	① 事務基盤システム更新と拡充	・ 事務系基盤システムの更新 ・ 職員用メールシステムの移行 ・ 教職員用グループウェアの構築
	② 業務システムの開発・更新およびクラウドサービスのさらなる活用	・ 留学生管理システムの構築（派遣業務） ・ 募金システムの開発 ・ 入試システムの改修（新制度対応） ・ 図書館システム更新のための事前準備 ・ 公開サーバの脆弱性診断の実施
(ICT環境の整備)		
(3) 情報セキュリティ強化のための運用・管理体制を確立する	① 情報システムセキュリティポリシーに基づく、マニュアル・ガイドライン等の策定	・ 部署別情報取扱マニュアルの作成 ・ セキュリティ教育に関する規程の作成
	② 情報セキュリティ監査体制の確立	・ 情報セキュリティ監査手順の策定
	③ 情報セキュリティ教育の継続的な実施	・ 教職員向けセキュリティ講習会の実施 ・ 標的型メール訓練の実施

II. 2019年度予算編成の基本方針

「上智学院グランド・レイアウト 2.1」に示された重要課題を推進するためには、限られた財源の最適配分（予算化）が必要です。

重要課題に基づく新たな教育研究の展開や、キャンパス整備計画（中等教育部門を含む）に基づく教育研究環境の整備改善など、財政的にインパクトのある新規課題を抱えている現状においては、最適化のために、新規プログラムに対する適否判断だけでなく、既存事業とその予算をいまいちど厳正に見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれることなく、適正かつ公正な必要最低限の予算を編成及び執行しなければなりません。

また、学校法人の収支は均衡していることが求められ、特に、本学院においては当年度収支差額の均衡に努め、財政の健全化を図ることが喫緊かつ重要な課題です。その重要課題への方策と、教育研究充実のための予算措置という、相反するとも言える両者への効果的対応を鋭意検討し、具体的な取り組みを推進していくことを、学院全体の共通認識といたします。

1. 事業計画に則った予算立案と適正執行

全教職員が、学校法人上智学院の重要課題と財政状況への理解を深め、事業計画に則った適正な予算を立案し、公費を適正に執行することの重要性を強く再認識する必要があります。

予算執行にあたっては、執行金額の多寡にかかわらず、常に合规性・経済性・有効性の観点から個々の取引を厳正に行うこととします。

2. 重要課題への予算の重点化

「上智学院グランド・レイアウト 2.1」に示された重要課題に係る教育研究活動及び基盤整備等の諸施策に対して重点的に予算を配分します。

3. 収支改善による収支均衡の実現

業務の見直しによる効率化をさらに徹底し、収支の均衡に一層努めます。

また、各事業の収支を的確に把握し、不採算事業への具体的な対応を引き続き検討することとし、収入増加策及び支出削減策を金額の多寡にかかわらず推進することとします。

4. 経費削減と最小予算による最大効果の発揮

教育・研究活動に係る経費は、新たな取組を積極的に推進するため、既存事業の経費削減を「聖域」なく検討・実施することとします。

また、限られた予算の効果的な使用と恒常的経費の削減にさらに努め、より少ない予算でより大きな効果を得られるよう創意工夫することとします。

5. 人件費依存率の低減

業務の合理化・効率化・外部委託化等を推進し、上智学院の事業活動収支計算書における人件費依存率の低下を図ります。

6. 学費収入の確保

文部科学省の入学定員管理の厳格化や18歳人口減少の顕在化により、学生数の減少が見込まれる中、学院の持続的発展の財政的根幹を成す学費収入を単価改定による増収を含め、安定的に確保します。

7. 外部資金の積極的な獲得

外部資金の獲得を積極的に進め、新たな取組みを含め諸活動に必要な財源は自ら確保することを原則とします。

寄付募集活動は、これまで培ってきた募集活動の基盤強化を継続して進めるとともに、周年募金により設立された基金及び奨学金等の学生支援制度の拡充を図るために、さらに積極的に寄付金募集活動を教職員全員で展開します。

8. 研究費制度の実績評価と研究費配分方式の見直し

学術研究特別推進費については、研究評価委員会を新たに設置し、PDCA サイクルを構築するとともに、評価結果を踏まえた制度改善・拡充を検討しています。また、研究成果発信に関わる研究費については、複数制度の統廃合による運用の合理化を図るなど、研究費制度の改善と予算の最適化を進めています。なお、各種学内研究関連予算についても、研究成果等実績に基づき研究費を配分する方式を検討し、研究活動の活性化と外部研究資金の導入促進を図ります。

9. 管理会計手法の導入と選択と集中の推進

安定的な財政基盤を構築し、「上智学院グランド・レイアウト 2.1」に示されている重要課題を円滑に推進するため、事業目的別の予算申請を実施し、中・長期財政計画に反映させるとともに、事業別、学部等セグメント別収支状況を適正に把握し、評価・見直しを常に行うことにより、選択と集中を進めます。

2019年度資金収支予算（学院）

（単位：千円）

収入の部			
科 目	本年度予算	前年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	19,193,282	19,017,294	175,988
手数料収入	1,175,482	1,167,481	8,001
寄付金収入	566,510	527,380	39,130
補助金収入	3,933,714	4,116,841	△ 183,127
資産売却収入	15,208,016	4,941,000	10,267,016
付随事業・収益事業収入	1,428,369	1,118,320	310,049
受取利息・配当金収入	565,714	600,789	△ 35,075
雑収入	1,034,810	1,170,187	△ 135,377
借入金等収入	1,500,000	5,150,000	3,650,000
前受金収入	4,519,248	7,409,667	2,890,419
その他の収入	6,984,584	6,078,675	905,909
資金収入調整勘定	△ 7,578,448	△ 5,777,656	△ 1,800,792
前年度繰越支払資金	8,841,528	7,244,446	1,597,082
収入の部合計	57,372,809	52,764,424	4,608,385

支出の部			
科 目	本年度予算	前年度予算	増 減
人件費支出	15,035,053	15,063,027	△ 27,974
教育研究経費支出	7,363,457	6,883,465	479,992
管理経費支出	1,704,724	1,574,388	130,336
借入金等利息支出	136,300	142,720	△ 6,420
借入金等返済支出	2,522,140	1,114,990	1,407,150
施設関係支出	3,851,454	10,399,182	△ 6,547,728
設備関係支出	835,836	1,195,999	△ 360,163
資産運用支出	18,752,745	9,667,977	9,084,768
その他の支出	1,250,129	1,405,798	△ 155,669
予備費	233,600	210,600	23,000
資金支出調整勘定	△ 1,005,390	△ 1,325,608	320,218
翌年度繰越支払資金	6,692,761	6,431,886	260,875
支出の部合計	57,372,809	52,764,424	4,608,385

2019年度事業活動収支予算（学院）

（単位：千円）

		科 目	2019年度予算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	19,193,282	
		手数料	1,175,482	
		寄付金	518,910	
		経常費等補助金	3,920,008	
		付随事業収入	978,369	
		雑収入	1,034,810	
		教育活動収入計	26,820,861	
	支出の部	人件費	15,091,611	
		教育研究経費	10,022,175	
		管理経費	1,949,403	
		教育活動支出計	27,063,189	
	教育活動収支差額			△ 242,328
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	565,714
			その他の教育活動外収入	450,000
教育活動外収入計			1,015,714	
支出の部		借入金等利息	136,300	
		その他の教育活動外支出	0	
		教育活動外支出計	136,300	
教育活動外収支差額			879,414	
経常収支差額			637,086	
特別収支	収入の部	資産売却差額	12,193,784	
		その他の特別収入（施設設備指定分及び現物寄付含む）	128,634	
		特別収入計	12,322,418	
	支出の部	資産処分差額	783,987	
		その他の特別支出	0	
		特別支出計	783,987	
特別収支差額			11,538,431	
【予備費】			233,600	
基本金組入前当年度収支差額			11,941,917	
基本金組入額			△ 9,002,090	
当年度収支差額			2,939,827	
前年度繰越収支差額			△ 14,464,487	
翌年度繰越収支差額			△ 11,524,660	

（参考）

事業活動収入計	40,158,993
事業活動支出計	28,217,076
事業活動収支差額	11,941,917